

授業科目名	地域看護学実習 (Community Health Nursing Practicum)	履修年次: 必修; 看3・4・ 編入3年	単位数: 3単位135時間 コード: NSP307	担当教員名: 科目責任者 佐藤紀子[保健師] (研究室: 図書館棟1) 雨宮有子[保健師]、細谷紀子 [保健師]、杉本健太郎 [保健師]、 松浦めぐみ [保健師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力、健康づくりの実践、多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 地域住民に対する看護活動の展開方法を理解し、多様な看護職の所属機関それぞれの役割や相互の関係性、及び連携・協働の必要性やその方法について理解できる。具体的な到達目標 1)実習体験に基づき、公衆衛生看護の理念・目標について説明できる、2)行政保健師、養護教諭、産業看護職が行う活動の展開方法を実習体験に基づき説明できる、3)家族を単位とした看護援助の基本技術方法を理解し、家庭訪問の計画・実施・評価ができる、4)実習体験を通して自己の課題および追究すべき研究課題を明確にすることができる。				
〔授業の概要〕 地域における看護職の目的・意義・役割・活動方法について、実践の場面において具体的に耳聞し、体験することを通じて学習する、実習形式の授業である。特に都道府県保健師、市町村保健師の活動を中心に置き、地区診断、健康教育、健康相談、家庭訪問、地区組織作り等に参加し、地域住民に果たすそれぞれの責務と連携方法を理解する。また産業従事者や学童の健康管理に関する保健師や養護教諭の活動についても、実践場面の体験を通じて理解する(下記の第3回~13回の臨地実習順序は、実習場の都合により変更あり) 本授業は、担当教員全員が保健師の実務経験に基づき学習の支援を行う。 キーワード: 公衆衛生看護、家庭訪問、地区活動、地域住民、連携・協働				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内容		担当
第1-3回	学内オリエンテーション・演習	実習目的・目標・方法等の説明 事前学習(家庭訪問計画作成、地区診断準備) 実習施設となる市町村の基礎情報(人口動態統計等)を事前レポートとしてまとめ、実習初日に持参すること		佐藤紀子 [保健師]
第4-11回	保健所・市町村実習	市町村保健センターおよび保健所において実習 ・事業参加 ・家庭訪問の情報収集/計画立案/実施/評価 ・地区診断/活動計画立案 ・最終カンファレンス 保健所実習に際して、別日に指定される保健所合同講義に出席すること		雨宮有子 [保健師] 細谷紀子 [保健師] 杉本健太郎 [保健師]
第12回	産業保健実習	企業において実習		松浦めぐみ [保健師]
第13回	学校保健実習	学校において実習		[保健師]
第14-15回	学内演習	各実習施設における体験や学びの共有と個々の学びの統合		
履修条件	地域看護学概論、地域看護学方法論 ~、看護技術論 ~、看護学入門実習、基礎看護学実習の単位を既に修得していること			
予習・復習	上記を参照			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	最新公衆衛生看護学 総論 各論1,2 宮崎美砂子他著、日本看護協会出版会 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会			
学生に対する評価	実習目標の達成状況(80%)、学習態度(20%)により、総合的に評価する。 ・レポート課題の詳細や提出方法は、学内演習時間内に説明する。 ・本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)			

授業科目名	看護政策論 (Nursing Policy)	履修年次: 選択: 看 4 年 編 4 年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: : NSP308	担当教員名: 科目責任者 佐藤 紀子[保健師] (研究室 図書館棟 1) 雨宮有子[保健師] , 細谷紀子[保健師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人々の健康や生活の質を保証する法律制度は、政策によって決定されている。そのため政策に関する基本的な考え方と政策形成過程を学び、看護に関連する政策に参画する意義および政策的働きかけの方法を理解する。具体的には1)政策と政策形成過程について説明できる、2)看護と政策の関連について説明できる 3)人々の健康生活に影響する政策課題について検討し、課題解決に向けた方法を提案することができる				
〔授業の概要〕 講義形式で、政策に関する基本的理論、看護職に関連する政策、保健医療福祉計画の策定と住民参加、施策化に必要となる能力について学び、それを踏まえてグループ演習で、人々の健康生活に関わる政策課題を検討し、課題解決に向けた方法を提案する。本授業は、保健師経験を有する3名の教員で講義および演習を行う。				
キーワード: 政策形成過程、保助看法、看護師等人材確保法、施策化・事業化				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/10	政策とは何か	政策・政策形成過程とは何か、政策過程の実際	佐藤紀子 特別講義講師
第2回	4/10	看護職にとっての政策	看護職者の資格・処遇、マンパワーに影響を及ぼす法令・政策と課題	佐藤紀子
第3回	4/17	看護職にとっての政策	看護職の教育・人材育成に関わる法令・政策の歴史的変遷と課題	雨宮有子
第4回	4/17	保健計画策定と住民参加	政策形成に係る行政保健師の特徴、政策体系および保健福祉計画策定のプロセス、計画策定における住民参加	細谷紀子
第5回	4/19	事業化・施策化に必要となる能力	思考力、情報収集・分析力、予算の仕組みの理解、アカウンタビリティ、パートナーシップ、交渉・調整力	細谷紀子
第6回	4/24	グループ演習	グループごとに人々の健康生活や看護に関わる政策的な課題を取り上げ、課題解決に向けた提案を検討する	佐藤紀子 雨宮有子 細谷紀子
第7回	.			
第8回	4/26	全体発表	各グループの成果を発表し討議する	
履修条件	特になし (保健医療福祉制度論、地域看護学概論・方法論 の学習内容を復習しておくこと)			
予習・復習	各担当教員の指示による			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	見藤隆子他著:看護職者のための政策過程入門 第2版 制度を変えると看護が変わる!,日本看護協会出版会. 吉岡京子他著:保健医療福祉専門職のための事業化・施策化のすすめ方,クオリティケア.			
学生に対する評価	学習態度;積極性、課題の取り組み状況(45%)、最終レポート;学習内容の理解度(55%)により、評価する。 課題の詳細と取組方法は、授業時間内に説明する。 本授業終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業科目名	育成期看護概論 Introduction to Maternal and Child Nursing	履修年次: 必修: 看2年 編3, 4年	単位数: 1単位 15時間 コード: NSP217	担当教員名: 石井邦子[助産師] (研究室: 教育棟 B308) 市原真穂[看護師]
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、子どもと子どもを産み育てる親・家族を対象とした育成期家族に対する看護を実践するための基本的知識を習得する。 1. 母性・小児の成長発達の特徴について理解する 2. 育成期家族に対する看護の基盤となる概念について理解する				
〔授業の概要〕 子どもと子どもを産み育てる家族の成長発達と健康を支援するための基本的知識(母性・小児の成長発達、育成期家族に対する看護の基盤となる概念、育成期家族をとりまく社会)について学修する。(本授業はオムニバス方式により行い、母性看護領域を助産師実務経験に基づき石井が、小児看護領域を看護師実務経験に基づき市原が担当する。) キーワード: 育成期家族、看護理論、小児の発達、母性の発達				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/8	母性の成長発達と看護1	身体的母性機能の成長発達と看護	石井邦子
第2回	4/15	母性の成長発達と看護2	女性のライフサイクル・心理社会的な成長発達と看護	石井邦子
第3回	4/22	小児の成長発達と看護1	小児の成長発達の特徴と看護1(発達総論)	市原真穂
第4回	5/13	小児の成長発達と看護2	小児の成長発達の特徴と看護2(生理機能の発達)	市原真穂
第5回	5/20	母性の成長発達と看護3	リプロダクティブヘルス	石井邦子
第6回	5/27	育成期家族に対する看護の基盤となる概念1	母性・小児の特徴と看護1	石井邦子
第7回	6/3	小児の成長発達と看護3	小児の成長発達と栄養	市原真穂
第8回 90分	6/10	育成期家族に対する看護の基盤となる概念2	母性・小児の特徴と看護2	市原真穂
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は事前課題で提示する。 復習はテキスト、配布資料、ノートの見直しをして、事後課題を提出すること。			
テキスト	小児看護学 (改訂第4版) 南江堂 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学[1] 医学書院			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 70%、各回の事後課題 20%、学習態度 10%			

授業 科目名	小児看護学方法論 Methods in Pediatric Nursing	履修年次: 必修:看2年	単位数: 1単位 30時間 コード: NSP218	担当教員名: 科目責任者 市原真穂[看護師] (研究室 教育棟 B309) 金丸 友 [看護師] 中山 静和[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 小児看護の対象である小児とその家族について、成長発達に伴い生じてくる身体的・心理社会的事項、および小児と家族へのアプローチの方法を理解できることを目的とする。				
〔授業の概要〕 本授業では小児の成長発達の特徴と成長発達を促進する援助、成長発達をアセスメントする方法について講義と演習形式で学習する。また、健康障害をもつ小児について、健康障害・治療・処置による小児の身体的・精神的反応、成長発達および生活への影響、家族の生活への影響等を教授する。(本授業はオムニバス方式により行い、看護師実務経験に基づき講義・演習を市原、金丸、中山が担当する。)				
キーワード:小児の成長発達、成長発達の評価、小児保健、小児臨床看護学総論				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	授業ガイダンス 小児の成長発達と看護1	授業オリエンテーション 統計から見た小児の状況、新生児期の発達	市原真穂
第2回	10/10	小児の成長発達と看護2	乳児期の発達と健康問題	市原真穂
第3回	10/17	小児の成長発達と看護3	幼児期の発達と健康問題 認知、社会性、生活習慣の発達と援助	市原真穂
第4回	10/24	小児の成長発達と看護4	学童期・思春期の発達と健康問題	金丸 友
第5回	10/31	小児の成長発達と看護5	発達が気になる小児の理解と支援	中山静和
第6回	11/7	小児医療・看護の現状 健康障害をもつ小児の看護1	小児医療・小児看護の現状・課題 小児と健康障害、FCC、傷つけないケア	市原真穂
第7回	11/14	健康障害をもつ小児の看護2	入院を必要とする小児と家族への看護 ストレス対処、痛み、緩和ケア	金丸 友
第8回	11/21	症状を示す小児の看護1	小児の症状の特徴、アセスメント、臨床推論、 呼吸の異常、脱水、体温の異常、けいれん	市原真穂
第9回	11/28	症状を示す小児の看護2	日常的によくある症状とホームケア 発熱、嘔吐、下痢、発疹	金丸 友
第10回	12/5	検査・処置を受ける小児の看護	小児の検査・処置の特徴と看護 プレパレーション、ディストラクション	中山静和
第11回	12/12	急性疾患に罹患した小児の看護	急性状態の小児の看護展開 感染症に罹患した小児の看護展開	市原真穂
第12回	12/19	小児の食事の援助	小児の食べる機能、食行動の発達と看護 (特別講義)	特別講義講師
第13回	1/9	成長・発達のアセスメント1	成長の評価演習、身体計測の技術演習	市原・金丸・ 中山
第14回	1/23	慢性疾患をもつ小児の看護	慢性疾患をもつ小児と家族への看護 (特別講義)	特別講義講師
第15回	1/30	成長・発達のアセスメント2	発達の評価、評価方法の演習	市原・金丸・ 中山
履修条件		特になし		
予習・復習		予習:テキストを熟読すること。復習:授業時に指示する。		
テキスト		小児看護学 (改訂第4版)南江堂、小児看護学 (改訂第4版)南江堂		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		定期試験(90%)、課題(5%)、学習態度(5%)により、総合的に評価する		

授業科目名	小児看護学方法論 Methods in Pediatric Nursing	履修年次: 必修: 看 3	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 市原真穂 [看護師] (研究室 教育棟 B309) 金丸 友 [看護師] 中山 静和 [看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 健康障害をもつ小児の看護について、多様な側面・状況から理解を深める。小児の発達段階・健康状態・治療方法を考慮した小児看護の知識と技術を習得する。				
〔授業の概要〕 本授業では、健康障害をもつ小児に関する多様な側面・状況について講義形式により教授し、多様な場で展開される小児看護の役割・特徴について学習する。また演習では、対象の発達段階や個性に応じたアセスメントについてグループワークにより学習し、臨床で必要となる基礎的な小児看護の技術について体得する。(本授業はオムニバス方式、一部共同により行い、看護師実務経験に基づき講義・演習を市原、金丸、中山が担当する。)				
キーワード: 小児臨床看護、健康障害をもつ小児、多様な状況における看護、看護過程、小児看護技術				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第 1 回	6/5	授業ガイダンス 演習ガイダンス	健康障害のある子どもの看護過程 模擬事例への看護展開のガイダンス 技術演習のガイダンス	市原真穂
第 2 回	6/5	小児疾患の特徴と治療	代表的な小児の疾患の特徴と治療 (特別講義)	特別講義講師
第 3 回	6/12	慢性疾患のある小児と家族への看護 1	型糖尿病、アレルギー性疾患等、在宅での療養行動が必要な子どものセルフケアの移行、家族への看護	金丸友
第 4 回	6/12	慢性疾患のある小児と家族への看護 2	小児がん、終末期の子どもと家族への看護 (特別講義)	特別講義講師
第 5 回	6/19	医療的ケア、重症心身障害のある小児の看護	障害による成長・発達への影響、アセスメントと看護、家族支援	市原真穂
第 6 回	6/19	手術を受ける小児の看護	小児の手術の特徴、手術を受ける小児と家族への看護	市原真穂
第 7・8 回	6/26	事例による小児の看護展開 1・2	模擬事例への看護展開のグループワーク	市原・金丸・中山
第 9・10 回	7/3	事例による小児の看護展開 3・4	模擬事例への看護計画の発表と共有	市原・金丸・中山
第 11・12 回	7/10	小児の看護技術演習 1・2	バイタルサイン測定 緊急時の対応、アナフィラキシーショック	市原・金丸・中山
第 13・14 回	7/17	小児の看護技術演習 3・4	酸素吸入、吸引、経管栄養 マルク、ルンパール	市原・金丸・中山
第 15 回	7/24	小児の看護技術演習 5	技術評価	市原・金丸・中山
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: テキストを熟読すること。復習: 授業時に指示する。 演習に関しては、演習要項を活用し予習・復習をすること。			
テキスト	小児看護学 (改訂第 4 版) 南江堂、小児看護学 (改訂第 4 版) 南江堂			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験 (70%)、事例課題 (15%)、技術課題 (10%) 学習態度 (5%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	小児地域ケア論 Child Health and Community Care	履修年次: 選択: 看3年	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 市原真穂 [看護師] (研究室 教育棟 B309)
		実務経験のある教員による授業科目	コード: NSP220	金丸 友 [看護師] 中山 静和 [看護師]
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、少子化の現在において小児の健康を守り、健康を増進し、成長・発達を促進するために地域で行われている支援の実践を学ぶ。さらに、疾患や障害をもつ小児への地域における支援の課題について学ぶ。				
〔授業の概要〕 講義では、支援の場や対象となる小児の特徴から、いくつかのテーマに沿って教授する。講義には、地域での小児ケアを実践している看護職者による特別講義も含まれる。授業のまとめとして、関心のある課題についてレポートを作成する。 (本授業はオムニバス方式により行い、看護師実務経験に基づき市原、金丸、中山が担当する。)				
キーワード: キーワード: 慢性疾患患児、医療的ケア、保育所、小児科クリニック、家族支援				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	担当
第1回	4/11	授業オリエンテーション 地域における小児とその家族へのケア	疾患や障害のある子どもとその家族への地域における支援の現状や制度と課題	市原真穂
第2回	4/18	疾患や障害がある子どもと家族への移行支援	疾患や障害がある子どもと家族の地域や在宅への移行期支援の実践	市原真穂
第3回	4/25	慢性疾患のある子どもと家族への家庭・地域・学校における支援	型糖尿病等の慢性疾患のある子どもと家族への家庭・地域・学校における支援	金丸 友
第4回	5/2	小児科クリニックの役割と看護	地域における小児科クリニックの看護の実践(特別講義)	特別講義講師
第5回	5/9	病児保育・病後児保育の役割と看護	病児保育・病後児保育の現状と看護の実践	中山静和
第6回	5/16	保育所での看護職者の役割	保育所での看護職者の役割(特別講義)	特別講義講師
第7回	5/23	学校教育における医療的ケアへの対応	学校教育における医療的ケアへの対応の実践と課題	市原真穂
第8回 45分	5/30	地域における小児のケア課題とその対応	課題への対応にむけた演習	市原真穂
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は指定した資料を精読して参加すること。 復習は授業内に示す。			
テキスト	小児看護学 (改訂第4版) 南江堂、小児看護学 (改訂第4版) 南江堂			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題レポート(80%)、学習態度(20%)により総合的に評価する			

授業 科目名	母性看護学方法論 Methods in Maternal Nursing	履修年次: 必修: 看2年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 石井邦子[助産師] (研究室: 教育棟 B308) 川城由紀子[助産師], 北川良子[助産師], 川村紀子[助産師], 増田恵美[助産師], 竹中奈々[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期にある母子・家族に対する看護実践を行うための基礎的知識と基本技術を修得する。 1. 妊娠～分娩期にある母子・家族の身体・心理社会的特徴を理解し、母性看護の役割と機能を説明できる。 2. 妊娠～分娩期にある母子・家族の心身の健康状態のアセスメントと基本的な援助技術を理解し、実施できる。 3. 新生児の成長発達と身体的特徴を理解し、母性看護の役割と機能を説明できる。 4. 新生児の成長発達と身体的特徴のアセスメントと基本的な援助技術を理解し、実施できる。				
〔授業の概要〕 周産期にある母子と家族に対する看護実践を行うための基礎的知識と基本技術(妊娠～分娩期にある母子と家族及び新生児の特徴と主な健康問題、看護の役割と機能)について学修し、妊娠～分娩期にある母子・家族及び新生児のアセスメント技術および健康問題の解決や健康の保持増進をめざした看護の基本的技術を修得する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 母性看護、妊娠期、分娩期、新生児期、周産期家族、基本的援助技術				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/21	妊娠期の特徴と看護1	妊婦・胎児の身体・心理社会的特徴と看護の実際	石井邦子
第2-3回	11/28	妊娠期の特徴と看護2	妊婦・胎児の身体・心理社会的特徴と看護の実際	石井邦子
第4-5回	12/5	分娩期の特徴と看護1	産婦・胎児の身体・心理社会的特徴と看護の実際	北川良子
第6-7回	12/12	新生児期の特徴と看護1	新生児の身体・心理社会的特徴と看護の実際	川村紀子
第8-9回	12/19	周産期家族の特徴と看護	周産期家族の心理社会的特徴と看護の実際	川城由紀子
第10-13回	1/9 1/23	妊娠期の特徴と看護3 分娩期の特徴と看護2	妊婦・産婦・胎児のアセスメント、基本的援助技術	石井, 北川, 川城, 川村, 増田, 竹中 (授業協力者)
第14-15回	1/30	新生児期の特徴と看護2	新生児のアセスメント、基本的援助技術	川村, 増田, 竹中, 川城, 北川, 石井 (授業協力者)
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は事前課題で提示する。 復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物を見直して、事後課題を提出すること。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学[1] 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験 50%, 技術演習 20%, 事後課題及び提出物 20%, 学習態度 10%			

授業科目名	母性看護学方法論 Methods in Maternal Nursing	履修年次: 必修: 看3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 石井邦子[助産師](研究室: 教育棟 B308) 川城由紀子[助産師], 北川良子[助産師], 川村紀子[助産師], 増田恵美[助産師], 竹中奈々[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期にある母子・家族に対する看護実践を行うための基礎的知識と基本技術を修得する。 1. 産褥期にある母子・家族の身体・心理社会的特徴を理解し、母性看護の役割と機能を説明できる。 2. 周産期にある母子・家族に対する看護目標設定や看護計画立案の方法を説明できる。 3. 周産期にある母子・家族の心身の健康状態のアセスメントと基本的な援助技術を理解し実施できる。				
〔授業の概要〕 周産期にある母子・家族に対する看護実践を行うための基礎的知識と基本技術(産褥・新生児期にある母子と家族及び新生児の特徴と主な健康問題、アセスメント技術、看護過程展開技術)について学修し、看護目標設定、看護計画立案、健康問題の解決や健康の保持増進をめざした看護の基本的技術を修得する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 母性看護、産褥期、看護過程、基本的援助技術				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1-2回	4/9	産褥期の特徴と看護1	褥婦の身体・心理社会的特徴と看護の実際	川城由紀子
第3-4回	4/16	産褥期の特徴と看護2	褥婦のアセスメント、基本的援助技術	川城, 川村, 増田 竹中, 石井, 北川
第5-6回	4/23	母性看護における看護過程1	母性看護における看護過程の展開	石井, 増田, 竹中
第7-8回	4/30	母性看護における看護過程2	看護計画・技術試験準備(グループワーク)	石井, 川城, 川村, 北川, 増田, 竹中
第9-10回	5/7	母性看護における看護過程3	看護診断・看護計画(発表)	増田, 竹中 石井, 川城
第11-14回	5/14 5/21	母性看護における基本技術	アセスメント、基本的援助技術(チェック)	石井, 川城 川村, 竹中
第15回 __限	5/28	母性看護における看護過程4	看護計画(発表)	増田, 竹中 石井, 川城
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は事前課題で提示する。 復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物を見直し、事後課題を提出する。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験(50%), 技術試験(20%), 事後課題及び提出物(20%), 学習態度(10%)			

授業 科目名	母性看護学実習 Maternal Nursing Practicum	履修年次:	単位数: 2 単位 90 時間	担当教員名: 川城 由紀子 [助産師] (研究室: 教育棟 B302)、石井 邦子[助産師]、 北川 良子[助産師]、川村 紀 子[助産師]、増田 恵美[助産 師]、竹中 奈々[助産師]
		必修: 看3・4年	コード: NSP309	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、健康づくりの実践、コミュニケーション				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、対象およびその家族の成長発達を促進し健康レベルに応じた援助 を実践するための基礎的能力を修得する。 1) 妊産褥婦・新生児およびその家族の特徴を理解し、発達段階や健康レベルに応じた看護ニーズが判断 できる。2) 対象の看護ニーズを充足するための看護を実践できる。3) 対象に実践された看護について 客観的に評価できる。4) 育成期家族の権利や価値観を尊重した援助について考え、援助関係の構築に 向けた行動を取ることができる。5) 看護専門職としての責任を自覚し、看護者間および他職種との連携 の在り方について考えることができる。6) 自己の学習過程を客観的に評価し、今後の課題を見出すこと ができる。				
〔授業の概要〕 3 年次後期または 4 年次前期に開講する。これまでに履修した関連科目の知識・技術を活かし学習す る。初日にオリエンテーションと技術演習を行う。周産期関連施設では妊婦や母子を受け持ち、看護の 見学や実践を通して母性看護の実際を理解する。学内においては、ケースカンファレンスと対象の権利 や価値観について、討議を通して学びを深める。また、個別面接を行う。これらの学習から実習目的・ 目標を達成することを目指す。教員は周産期医療機関における助産師の実務経験もふまえ、実習におけ る教育・支援を行う。				
キーワード: 母性看護、周産期、看護過程、看護実践、臨地実習				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1・2回	学内オリエンテーション	・オリエンテーション ・技術演習 ・自己の学習課題についての学習		川城 由紀子 石井 邦子 北川 良子 川村 紀子 増田 恵美 竹中 奈々
第3～8回	施設実習	・周産期関連施設における看護の実践 ・施設カンファレンス		
第9回	ケースレポート	・ケースレポートの作成		
第10回	まとめ・面接	・ケースカンファレンス ・育成期家族における権利や価値観 ・自己評価 ・個人面接		
履修条件	育成期看護概論、看護技術論 ～、母性看護学方法論 ～、看護学入門実習、 基礎看護学実習の単位を既に修得済みであること			
予習・復習	予習は、育成支援看護概論、母性看護学方法論 ・ での既習学習内容を十分確 認しておくこと。復習は、実習記録やケースレポートを見直すこと。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	関連科目で使用したもの、および必要に応じて適宜紹介する			
学生に対する評価	実習目標の到達状況 (70%)、レポート (10%)、実習態度 (20%)			

授業科目名	小児看護学実習 Pediatric Nursing Practicum	履修年次: 必修: 看3年、看4年 実務経験のある教員による授業科目	単位数: 2単位 90時間 コード: NSP310	担当教員名: 科目責任者 市原真穂〔看護師〕 (研究室 教育棟 B309) 金丸 友〔看護師〕 中山 静和〔看護師〕
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 小児の特徴を理解した上で、小児およびその家族の成長発達を促進する援助や健康レベルに応じた援助を判断し実践するための基礎的能力を身につけることを目的とする。				
〔授業の概要〕 小児の入院施設では、入院中の小児の個性や看護ニーズをアセスメントし、必要な援助を計画し、実践・評価する。また、小児と家族の権利や価値観を尊重した援助について、自己の実践を振り返りながら学ぶ。障害児入所施設における見学実習では、発達上の課題をもつ小児に必要な看護援助、看護者間および多職種間の連携について学ぶ。また、健康な子どもの生活場面での参加観察等から、設定したテーマに沿って子どもの成長発達の特徴を理解し、成長発達を促進する援助について学ぶ。(本授業はオムニバス方式により行い、看護師実務経験に基づき臨地実習・学内演習を市原、金丸、中山が担当する。)				
キーワード: 小児病棟、看護実践、対象者の権利・価値観、小児リハビリテーション、成長発達の促進				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回	学内オリエンテーション	オリエンテーション 技術演習		市原真穂 金丸 友 中山静和 授業協力者
第2～5回	小児病棟実習	小児病棟における受け持ちの対象に必要な看護を実践する		
第6回	障害児施設実習	障害児施設で、長期入所、短期入所、レスパイトにおける実践、および子どもへのリハビリテーションの実際を見学する		
第7～9回	保育施設実習	保育所等において、子どもの日常生活場面での様子ややりとりを通して成長・発達を促進する援助を考察する。		
第10回	グループディスカッションとまとめ	各実習における学びの共有 振り返りと意味付けによる個々の学びの統合		
履修条件	育成期看護概論、看護技術論 ～ 、小児看護学方法論 ・ 、看護学入門実習、基礎看護学実習の単位を既に修得していること			
予習・復習	予習: 実習要項における演習資料の事前学習を行うこと。また、関連科目の授業資料、実習に関連した参考図書等を読み、関連技術の振り返りをしておくこと。 復習: 実習で不足していた知識・技術を関連した参考図書等で学習すること。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	関連科目で使用したもの、および必要に応じて適宜紹介する			
学生に対する評価	実習目標の到達状況(90%)、実習態度(10%)により総合的に評価する			

授業 科目名	助産学概論 Introduction of Midwifery	履修年次： 選択：看3年 編3年	単位数： 1単位15時間 コード：NSP223	担当教員名：石井邦子[助産師] (研究室：教育棟B308) 川城由紀子[助産師]， 北川良子[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 女性の生涯にわたる健康およびプロダクティブヘルスに関わる専門職としての助産師の役割と責務を理解する。 1. 助産師活動の場および助産師が関与する健康問題と看護の特徴を説明できる。 2. 助産師の専門性、役割と責務について、法律や社会情勢、医療の現状を踏まえて説明できる。				
〔授業の概要〕 助産師の活動に関連する女性の健康とリプロダクティブヘルス、地域または医療施設における助産師活動の実際、助産師活動に関連する法規、施策、社会制度等について学修する。(本授業はオムニバス方式により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード：助産、助産師、女性の健康				
〔授業計画〕				
回数		テ マ	内 容	担当
第1回	4/11	助産師の役割と責務	助産師の役割と責務の変遷，関連法規、 施策、社会制度	石井邦子
第2回	4/18)	助産師活動の実際	周産期医療提供システムと助産師	北川良子
第3回	4/25	助産師活動の実際	母乳育児支援	宮前花と緑の保育園 柳澤美香
第4回	5/2	助産師活動の実際	女性とパートナーに関する支援	秀明大学 三隅順子
第5回	5/9	助産師活動の実際	不妊カップルに対する支援	医療法人越田クリニック 藤島由美子
第6回	5/16	助産師活動の実際	地域における助産師活動	川島助産院 川島広江
第7回	5/23	助産師活動の実際	医療施設における助産師活動	川城由紀子 (特別講師) (特別講師)
第8回	5/30	助産師活動の実際	女性のライフサイクルと健康相談	川城由紀子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習は、事前課題で提示する。 復習は配布資料、ノートを見直し、事後課題を作成すること。		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		事後課題(80%)，学習態度(20%)		

授業科目名	助産診断・技術学 Method in Midwifery	履修年次: 選択: 看3年 編3年	単位数: 1単位15時間 コード: NSP224	担当教員名: 石井邦子[助産師](研究室: 教育棟 B308), 川城由紀子[助産師], 北川良子[助産師], 川村紀子[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期から育児期における母子とその家族のリプロダクティブヘルスを支援するための基礎的知識と助産技術を修得する。 1. 助産診断・助産技術の特徴と助産過程展開方法を理解する。 2. 周産期及び育児期における助産診断に必要な知識を修得し、助産診断の方法を説明できる。 3. 周産期及び育児期における助産技術の活用方法を説明できる。				
〔授業の概要〕 周産期から育児期にある母子と家族のリプロダクティブヘルスを支援するための基礎的知識と助産技術を修得する。周産期から育児期にある母子と家族のリプロダクティブヘルスに関する助産診断に必要な基礎的知識と診断技術、リスクの程度や正常経過逸脱の程度に応じた助産ケアを提供するための助産技術について学修する。(本授業はオムニバス方式により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 周産期・育児期、助産診断、助産技術、助産ケア				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/30 45分	助産診断・助産技術	助産診断・技術とは、助産過程展開方法	石井邦子
第2回	6/6	妊娠期の助産診断・技術	妊娠前半期における助産診断・助産ケア	石井邦子
第3回	6/13	妊娠期の助産診断・技術	妊娠後半期における助産診断・助産ケア	石井邦子
第4回	6/20	分娩期の助産診断・技術	分娩第1期における助産診断・助産ケア	北川良子
第5回	6/27	分娩期の助産診断・技術	分娩第2～4期における助産診断・助産ケア	北川良子
第6回	7/4	新生児期～乳幼児期の助産診断・技術	新生児期～乳幼児期における助産診断と助産ケア	川村紀子
第7回	7/11	産褥～育児期の助産診断・技術	産褥期～育児期における助産診断と助産ケア	川城由紀子
第8回	7/18	まとめ	まとめ・総括	石井邦子
履修条件	助産学概論を履修済であることが望ましい			
予習・復習	予習は事前課題で提示する。 復習は配布資料とノートを見直し、事後課題を作成すること。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	事後課題(30%)，定期試験(50%)，学習態度(20%)			

授業科目名	助産診断・技術学 Method in Midwifery	履修年次: 選択：看4年	単位数: 2単位60時間 コード：NSP311	担当教員名：石井邦子[助産師](研究室：教育棟 B308) 川城由紀子[助産師],北川良子[助産師],川村紀子[助産師],増田恵美[助産師],竹中奈々[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基本的知識の活用方法と基本的技術を修得する。 1. 周産期にある母子と家族に対する助産ケア展開における助産の専門的知識の活用方法を理解する。 2. 周産期にある母子と家族の助産診断・助産計画立案方法を説明できる。 3. 分娩介助と出生直後新生児ケアの基本を理解し、原理原則に基づき実施できる。				
〔授業の概要〕 周産期にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基本的知識の活用方法と基本的技術を修得する。 周産期にある母子と家族の母子の助産診断と助産計画の立案を行い、基本的知識の活用方法と助産過程展開方法について学修する。母子の安全を守るための原理原則に基づいた分娩介助と出生直後新生児ケアについて学修する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。) キーワード：周産期、継続ケア、助産診断、助産計画、分娩介助技術、出生直後新生児ケア				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1-2回	4/10	妊娠期の助産診断・技術1	妊娠期における基本的知識と活用方法 (発表・討議)	石井, 竹中
第3-4回	4/11	分娩期の助産診断・技術1	分娩期における基本的知識と活用方法 (発表・討議)	北川, 増田
第5-8回	4/11 4/12	周産期助産ケアの展開 (長期目標・妊娠期)	妊娠期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	石井, 竹中
第9-12回	4/12 4/17	周産期助産ケアの展開 (分娩予測・分娩開始)	分娩期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	北川, 増田
第13-14回	4/18	産褥新生児期の助産診断・技術1	産褥新生児期における基本的知識と活用方法(発表・討議)	川城, 川村
第15-18回	4/18 4/19	周産期助産ケアの展開 (分娩終了時/退院時)	産褥新生児期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	川城, 川村
第19-20回	4/19 4/24	周産期助産ケアの展開 (継続支援)	継続ケアと助産診断・助産技術	石井邦子
第21-22回	4/25	分娩介助技術	分娩介助法理論, 基本的分娩介助技術	北川, 増田, 竹中
第23-24回	4/25	出生直後新生児ケア技術	出生直後新生児ケアの原則, 出生直後新生児ケア技術	川村, 竹中, 増田
第25-26回	4/26	分娩介助・出生直後新生児ケア技術1	基本的技術(演習)	増田, 竹中
第27-30回	6/21	分娩介助・出生直後新生児ケア技術2	基本的助産技術(評価)	北川, 川村, 石井 川城, 増田, 竹中
履修条件	助産課程履修学生			
予習・復習	予習はテキストを熟読のこと。 復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト1・2・3・5・7(看護協会出版会)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(30%), 技術試験(30%), 提出物(20%), 学習態度(20%)			

授業科目名	助産診断・技術学 Method in Midwifery	履修年次: 選択: 看4年	単位数: 3単位90時間	担当教員名: 石井邦子[助産師](研究室: 教育棟 B308) 北川良子[助産師], 増田恵美[助産師], 川城由紀子[助産師], 川村紀子[助産師], 竹中奈々[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 医療施設における助産ケア実践のための基礎的能力及び安全安楽な分娩期ケアを提供するための基礎的能力を修得する。 1. 医療施設における助産ケアの実際を知り、助産ケア実践の基盤となる知識と技術を理解する。 2. 分娩期にある母子と家族の助産診断・助産計画立案方法を説明できる。 3. 分娩期にある母子に安全安楽な助産ケアを提供するための基本的ケアが実施できる。				
〔授業の概要〕 安全・安楽な分娩期ケアを提供するための基礎的能力を修得する。実習施設における助産ケアの実際を素材とし、各施設における助産ケアの特徴や受け持ち事例に対する助産過程展開方法について学修する。模擬事例を用いて、分娩期の母子に対する安全安楽な出産のための助産診断、助産計画立案、分娩進行に即した基本的ケアについて学修する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 分娩期、産婦ケア、助産診断、助産計画、分娩介助技術				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1-2回	6/18	医療施設における助産ケア1	医療施設における周産期ケアの実際(実習オリエンテーション)	北川, 増田, 石井 川城, 川村, 竹中
第3-9回	6/18 6/24 6/25	分娩期における助産過程展開1	分娩期の助産診断・計画立案・評価事例展開の実際, 模擬事例演習(発表・討議)	北川, 増田, 竹中
第10-11回	6/26	助産ケアの基本技術1	助産ケア提供の基本技術(演習)	増田, 竹中
第12-13回	7/23	医療施設における助産ケア2	医療施設における助産ケアの実際(発表・討議)	北川, 増田, 石井 川城, 川村, 竹中
第14-16回	7/23 7/24	助産ケアの基本技術2	助産ケア提供の基本技術(演習)	増田, 竹中
第17-31回		医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際(継続ケア・臨地での実践を含む)	石井, 北川, 増田 川城, 川村, 竹中
第32-33回	8/29	医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際(産婦ケア)(発表・討議)	北川, 増田, 石井 川城, 川村, 竹中
第34回	8/29	医療施設における助産ケア3	医療施設における助産ケア実践(実習オリエンテーション)	北川, 増田, 石井 川城, 川村, 竹中
第35-36回	8/30	医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際(継続ケア)(発表・討議)	石井, 北川, 増田 川城, 川村, 竹中
第37-40回	9/5	分娩期における助産過程展開2	分娩期の助産診断・助産ケア(演習)	増田, 竹中
第41-45回	9/6	分娩期における助産過程展開3	分娩期の助産診断・助産ケア(評価)	北川, 川村, 石井 川城, 増田, 竹中 (授業協力者)
履修条件	助産課程履修学生			
予習・復習	予習はテキストを熟読のこと。復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト1-7(看護協会出版会)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	発表・討議(30%), 提出物(20%), 技術試験(30%), 学習態度(20%)			

授業科目名	助産診断・技術学 Methods in Midwifery	履修年次: 選択：看4年	単位数: 2単位60時間	担当教員名：石井邦子[助産師](研究室：教育棟 B308) 川城由紀子[助産師],川村紀子[助産師],竹中奈々[助産師],北川良子[助産師],増田恵美[助産師],
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期における継続ケア及びハイリスク状態にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基礎的知識と基本的技術を修得する。助産師の役割と責務についての理解を深め、自己のキャリアプランを作成する。 1. 正常経過逸脱の予防と早期発見を含む、継続ケアに必要な基本的知識と技術を修得する。 2. 正常経過逸脱に対応する助産ケアの理解を深め、助産ケアに必要な基礎的能力を修得する。 3. 周産期ケアにおける助産師の役割と責務について理解を深める。 4. 自己の学習状況を客観的に評価し、助産師として成長し続けるためのキャリアプランを作成する。				
〔授業の概要〕 周産期における継続ケア及びハイリスク状態にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基礎的知識と基本的技術を修得する。助産師の役割と責務についての理解を深め、自己のキャリアプランを作成する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。) キーワード：ハイリスク分娩、正常逸脱時ケア、助産師の役割責務、健康相談				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1-6回	8/30 9/2	継続ケアと助産1(健康相談)	継続ケアにおける健康相談(目標設定)	川城,川村
第7-8回	9/2 9/3		継続事例に対する健康相談(計画立案)	川城,川村
第9-10回	9/3		継続事例に対する健康相談(実施・評価)	川城,川村,石井 北川,増田,竹中
第11-13回	9/4		継続事例に対する健康相談(まとめ)	川城,川村
第14-16回	10/9	継続ケアと助産2	継続事例における助産ケア(発表・討議)	石井,北川,増田 川城,川村,竹中
第17-18回	10/10	医療施設における助産ケア	医療施設における助産ケア(相互評価)	北川,増田,石井 川城,川村,竹中
第19-20回	11/5	継続ケアと助産3	継続事例における助産ケア(発表・討議)	石井,北川,増田 川城,川村,竹中
第21-23回	11/5	正常経過逸脱時の助産診断・技術1	正常経過逸脱時の助産診断・技術(急速遂娩・会陰縫合)	増田,北川 (特別講師)
第24-26回	11/6	正常経過逸脱時の助産診断・技術2	新生児蘇生(NCPR)	竹中,川村 (特別講師)
第27-29回	11/7	医療施設における助産ケアの実際	ハイリスク状態における助産ケア(発表・討議)	北川,川村,石井 川城,増田,竹中 (授業協力者)
第30回	11/11	助産師の役割と責務(まとめ)	自己評価とキャリアビジョン作成	石井,北川,増田 川城,川村,竹中
履修条件	助産課程履修学生			
予習・復習	予習はテキストを熟読のこと。復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト1-7(看護協会出版会)新生児蘇生法テキスト(MEDICALVIEW)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	発表・討議(30%),提出物(20%),技術演習(30%),学習態度(20%)			

授業科目名	助産学実習（産婦ケア体験） Midwifery Practicum 1 Introduction for Midwifery Practice	履修年次： 選択：看3年	単位数： 1単位 45時間	担当教員名：科目責任者 北川 良子(教育棟B314) 石井 邦子, 川城 由紀子, 川村 紀子, 増田 恵美, 竹中 奈々[全員 助産師]
		実務経験のある教員による授業科目	コード：NSP314	
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
実習目的：施設における周産期ケアの実際を学ぶ。正常経過をたどる分娩期にある母子の経過を理解し、安全・安楽な出産を目指した助産ケアの方法の実際を学ぶ。				
実習目標：1) 母子とその家族に対するヒューマンケアの基本に則った看護実践とはどのようなものかを考えることができる。2)-1 分娩期の母子の身体的・心理社会的変化の実際を、既習知識と照合して経時的に整理できる。2)-2 産褥・新生児期の母子とその家族の助産診断を行い、計画を立案できる。3)-1 安全・安楽な分娩を支援するための産婦ケアの実際を、根拠に基づいて意味づけ、整理できる。3)-2 産褥・新生児期の母子とその家族の助産計画に沿って実施できる。3)-3 母子とその家族に対する個別性や発達段階を重視した看護実践とはどのようなものかを考えることができる。3)-4 母子とその家族との援助的人間関係の形成とはどのようなものかを考えることができる。4) 周産期にある母子のケア見学・実施と産婦ケアの見学を通して、周産期の継続ケアおよび産婦ケアにおける自己の課題を見出し、具体的な学習計画を立案することができる。				
〔授業の概要〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・分娩進行中の産婦に付き添い、分娩期の産婦と胎児の経過の把握及び安全・安楽な出産のための助産ケアの実際を見学することを通して学ぶ。 ・周産期にある母子とその家族に対するケアを見学または実施する。 ・周産期医療機関における助産師の実務経験もふまえ、実習時の教育・支援を行う。 				
〔授業計画〕 キーワード：助産、周産期ケア、正常分娩のケア、臨地実習				
回数	テーマ	内 容		担当
第1～2回	周産期の母子とその家族のケアの実際	実習施設のオリエンテーションを受け、周産期にある母子とその家族に対するケアを見学または実施する。施設における分娩介助のオリエンテーションを受ける。		北川 良子 石井 邦子 川城由紀子 川村 紀子 増田 恵美 竹中 奈々
第3～4回	分娩進行中の産婦の理解と安全・安楽な産婦ケアの実際	分娩進行中の産婦に付き添い、担当助産師のケアの実際を見学する。分娩進行状況にともなう産婦と胎児の身体的・心理社会的変化、安全・安楽な出産を支援するためのケアおよび産婦に対する効果的なコミュニケーションについて、課題にそってレポートにまとめる。		
第5回	カンファレンス	見学を通して得た学びと今後の課題を整理する		
履修条件	助産課程履修学生			
予習・復習	予習は育成期看護概論，母性看護学方法論，母性看護学実習，助産学概論，助産診断技術学 で学んだ内容を確実に復習しておくこと。復習は実習記録を見直すこと。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト4・5・6・7（日本看護協会出版会）			
参考書・参考資料等	育成期看護概論，母性看護学方法，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学 で使用したもの，および必要に応じて適宜紹介する			
学生に対する評価	実習目標の到達状況 80%，レポート 10%，提出物及び学習態度 10%			

授業科目名	助産学実習（継続支援） Midwifery Practicum 2 (Practice in Perinatal Period)	履修年次: 選択：看4年	単位数: 2単位 90時間	担当教員名：石井邦子[助産師] (研究室：教育棟 B308) 川城由紀子[助産師]、北川良子[助産師]、川村紀子[助産師]、増田恵美[助産師]、竹中奈々[助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>実習目的：妊娠期から産後1か月の時期にある母子および家族に対する継続看護の実践能力を養う。</p> <p>実習目標：1) 母子とその家族に対してヒューマンケアの基本に則った看護実践を行うことができる。2) 周産期の母子とその家族の助産診断を的確に行い、母子とその家族の個別性や発達段階に即した助産目標の設定と継続看護（助産）計画の立案ができる。3) 周産期にある母子とその家族に対して、助産計画に基づき、母子とその家族に対する科学的根拠に基づいたケアを実践することができる。4) 周産期医療におけるチームの連携・協働の方法を明確にすることができる。5) 継続看護の実践を通して、常に研鑽する力を身につけ、助産師としてのアイデンティティを形成することができる。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>周産期における継続支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥期にある母子および家族に対する継続看護を実践する助産ケアの実践能力を習得する。実習施設の産科外来、産科病棟において、妊娠後期及び分娩期から産後1か月までの母子を受け持つ。妊娠・分娩・産褥各期の経過に即した助産診断・助産計画を立案し助産ケアを実践する。妊娠期には妊婦健康診査および健康教育を行う。分娩期には、安全・安楽で満足感のある出産のための産婦ケアを実践する。産褥期には入院中から産後1か月の継続的な健康支援、育児支援を実践する。（本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。）</p>				
キーワード：助産、周産期、継続ケア、臨地実習				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内容		担当
第1-4回	妊娠期の継続看護	妊娠末期の妊婦健康診査における助産ケア (妊婦健康診査・健康教育の見学・実施)		石井 川城 北川 川村 増田 竹中
第5-6回	分娩期の継続看護	分娩進行中の助産ケア		
第7-10回	産褥早期・新生児早期の継続看護	産後入院中の助産ケア (健康診査, 健康支援, 育児支援の実施)		
第11-14回	地域における産褥・新生児期の継続看護	退院から産後1か月までの助産ケア (電話訪問, 家庭訪問, 二週間健診, 産後1か月健診, 生後1か月健診の実施)		
第15回	まとめ	周産期における継続看護のあり方と自己の課題(カンファレンス)		
履修条件	助産課程履修学生、助産学実習の単位を修得済みであり、かつ、助産診断技術学の単位を修得見込みであること			
予習・復習	予習は助産・診断技術学のテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。復習は、提出物の見直しをすること。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト1 - 7 (看護協会出版会)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	実習目標の到達状況 60%、提出物及び学習態度 40%			

授業 科目名	助産学実習 (産婦ケア) Midwifery Practicum 3(Practice in Labor and delivery period)	履修年次： 選択：看4年	単位数： 3単位 135時間	担当教員名： 科目責任者 北川 良子 (研究室：教育棟B314) 石井 邦子, 川城 由紀子 川村 紀子, 増田 恵美, 竹中 奈々[全員助産師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 健康づくりの実践, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 実習目的：正常経過をたどる分娩期の母子に対する安全・安楽な出産のための助産ケア実践能力を体得する。 実習目標：1) 母子とその家族に対してヒューマンケアの基本に則った看護実践を行うことができる。2) 分娩期の助産診断を的確に行い, 母子とその家族の個性や発達段階に即した助産目標の設定と助産計画の立案ができる。3) 分娩期にある母子とその家族に対して, 助産計画に基づき, 母子とその家族に対する科学的根拠に基づいたケアを実践することができる。4) 分娩期の産婦に対するチームの連携・協働の方法を明確にすることができる。5) 分娩期の産婦ケア実践を通して, 常に研鑽する能力を身につけ, 助産師としてのアイデンティティを形成することができる。				
〔授業の概要〕 ・実習施設の産科病棟において, 正常経過をたどる分娩期の母子と予定帝王切開術を受ける母子を受け持ち, 経過に即した助産診断・助産計画を立案のもと, 安全・安楽で満足感のある出産のための助産ケアを実践する。 ・周産期医療機関における助産師の実務経験もふまえ, 実習時の教育・支援を行う。				
〔授業計画〕 キーワード：助産, 分娩期, 産婦ケア, 臨地実習				
回数	テーマ	内 容		担当
第1~4回	分娩期の 産婦ケア 1~2例目	2例の産婦を受け持ち, 指導者の全面的な指導・助言のもと, 原理原則に従い, 基本的な産婦ケア(分娩介助を含む)を行う。産婦ケアを振り返りながら分娩期の助産診断・助産計画を立案し, 評価を行う。		北川 良子 石井 邦子 川城 由紀子 川村 紀子 増田 恵美 竹中 奈々
第5~10回	分娩期の 産婦ケア 3~6例目	4例の産婦を受け持ち, 分娩経過に即した助産診断を行い, 安全で安楽な分娩を目指した助産計画を立案する。助産計画に基づき, 指導者の指導・助言のもと, 原理原則に従い, 安全・安楽な分娩を目指した産婦ケア(分娩介助を含む)を行う。		
第11~14回	分娩期の 産婦ケア 7~10例目	4例の産婦を受け持ち, 産婦の分娩経過に即して包括的に助産診断を行い, 母子とその家族が安全・安楽で満足感のある分娩となることを目指した助産計画を立案する。助産計画に基づき, 指導者の助言・見守りのもと, 安全・安楽で満足感のある分娩を目指した産婦ケア(分娩介助を含む)を行う。		
第15回	カンファレンス	実習目標における到達状況, 分娩介助を含む産婦ケアにおける自己の学びと課題についてまとめる		
履修条件	助産課程履修学生, 助産学実習 は既習, 助産診断技術学 は修得見込み			
予習・復習	予習は育成期看護概論, 母性看護学方法論, 助産学概論, 助産診断技術学 で学んだ既修得知識を十分に復習しておくこと。復習は実習記録を見直し, 振り返り学習を行うこと。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト4・5・6・7(日本看護協会出版会)			
参考書・参考資料等	NCPR 新生児蘇生法テキスト第3版(メジカルビュー社)			
学生に対する評価	実習目標の到達状況 80%, 提出物及び学習態度 20%			

授業 科目名	看護管理論 (Nursing Administration)	必修：看4年 編入4年	1単位：15時間	担当：西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		実務経験のある教員による授業科目	NSA301	
〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 看護管理の概念と看護を組織的に提供するしくみを説明できる				
2. 看護サービスマネジメントについて理解できる				
3. 看護を取り巻く諸制度について理解できる				
4. 看護サービスマネジメントに必要なスキルについて理解できる				
〔授業の概要〕				
看護管理とは、「患者にケア、治療、そして安楽を与えるための看護スタッフメンバーによる仕事の過程」(Gillies,D,A)である。日本看護協会においても「臨床における看護管理とは、患者や家族に看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために行う仕事の過程である。看護管理者は、最良の看護を患者や家族に提供するために、計画し、組織化し、指示し、統制を行う」としている。本授業は、看護管理の概念と質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するためのしくみと機能、マネジメントに必要な基本的知識、臨床における看護マネジメントの実際について学習し、看護管理実習につなげる。				
看護管理者としての実務経験に基づき、2名の担当教員が講義を行う。				
〔授業計画〕キーワード：看護管理、看護ケアマネジメント、看護の質管理、人的資源管理、医療安全管理、				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/8・	看護管理の概念・基本的理論	看護管理の概念と看護管理の歴史の変遷 看護のマネジメントとは	西村 宣子
第2回	4/8・	看護サービスのマネジメント	理念の形成と浸透 組織化 人事労務管理 物的資源管理	富樫 恵美子
第3回	4/15・	看護ケアのマネジメント	看護管理の基本、日常業務のマネジメント 看護サービスとプロフェッション	西村 宣子
第4回	4/15・	安全なケアの提供と質保証	時間管理と業務の進め方 安全管理とリスクマネジメント 感染管理 情報管理 看護の質評価、	西村 宣子
第5回	4/22・	看護サービスにおける 人的資源管理	キャリア発達とキャリア開発、人材育成、 継続教育、配置と採用、ワークライフバ ランス リーダーシップとマネジメント	西村 宣子
第6回	4/22・	看護を取り巻く諸制度	法律と医療制度、医療保険制度と診療報酬 看護の経済的評価、看護政策、	富樫 恵美子
第7回	4/23・	看護サービスマネジメントに必 要なスキル	リーダーシップ・コーチング、ストレスマ ネジメント、タイムマネジメント、交渉術	西村 宣子
第8回	4/23・	まとめ	看護実践のための倫理と責任 -倫理的なリーダーとは-	西村 宣子
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：テキストの指定された部分を熟読する。復習：授業資料を見直す。			
テキスト	上泉和子他著：〔系統看護学講座 統合分野〕看護管理 第10版(医学書院)			
参考書・ 参考資料等	手島 恵著：「看護管理学(改訂第2版)」南江堂) 原玲子著：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門第2版(日本看護協会出版会)			
学生に対する評価	学習態度(20%)、試験(80%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	災害看護学 (Disaster Nursing)	履修年次:必修:	単位数:1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 細谷紀子 [保健師](研究室:図書館棟4) 佐藤紀子[保健師]
		看3年、編3年	コード:NSA302	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, コミュニケーション能力, 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解する。 ・災害発生時及び災害発生に備えた平常時における看護職の役割および活動方法を理解する。				
〔授業の概要〕災害が人々の健康生活に及ぼす影響、および災害発生時・平常時における看護職の役割や活動方法について実践事例を通して教授する。なお、本講義での「災害」とは自然災害のみではなく、汚染事故等の人為災害やパンデミックにより不特定多数の住民の健康および生活に影響を及ぼす事態とする。本授業は保健師経験のある担当教員2名と救急看護および災害看護の実務者の特別講義により構成する。				
キーワード: 災害看護、災害サイクル、要配慮者・避難行動要支援者、健康危機管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	災害看護とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の定義・種類別の健康被害の特徴 ・災害関連死・防ぎ得た死 ・災害看護の定義・役割と必要な能力 	細谷紀子
第2回	4/18	災害サイクルに応じた看護活動・我が国の災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害サイクルに応じた健康ニーズと看護活動 ・災害に関わる法律・制度と国・地方自治体の役割 ・災害対策に係る組織・社会資源 	細谷紀子
第3回	4/25	要配慮者の対象特性に応じた看護活動・健康危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の対象特性に応じた看護活動 ・健康危機管理と保健所の役割 	細谷紀子
第4回	5/2	急性期に必要な看護活動	<ul style="list-style-type: none"> ・トリアージの基本的知識と方法、応急処置・搬送 ・病院における災害対策・初動体制の立ち上げ (特別講義) 	千葉県総合救急 災害医療センター 中田元気
第5回	5/9	災害対応意思決定演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「クロスロード」を用いた、災害対応場面における問題共有と合意形成の演習 ・災害と倫理 【課題レポート】 	細谷紀子 佐藤紀子
第6回	5/16	中長期における看護活動・放射線災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所や仮設・復興住宅における看護 ・心のケアと救援者自身の心身の防衛 ・放射線災害への対応 	細谷紀子
第7回	5/23	派遣(応援)看護職の活動の実際	被災地における災害支援ナースの活動の実際 (特別講義)	総合病院国保旭中央 病院 石毛香織
第8回	5/30 45分	平常時における看護活動	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策における行政保健師の役割 ・要配慮者を包摂した地域の支援体制づくり 	細谷紀子
履修条件	特になし			
予習・復習	予習・復習はテキストを用いて事前学習および講義後の学習により理解を定着させること。			
テキスト	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践 災害看護、酒井明子他編、メディカ出版			
参考書・参考資料等	ルポ・そのとき看護は ナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会、その他、授業で紹介する			
学生に対する評価	筆記試験(80%) 課題レポート(10%) 学習態度(10%)により総合的に評価する。本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)			

授業科目名	看護キャリア発達論 (Career Development in Nursing)	必修：看2年 編入3年	1単位 15時間 コード：NSA201	担当：西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		実務経験のある教員による授業科目		
		〔DP〕 倫理とプロフェッショナリズム 生涯にわたる探求心と自己研鑽		
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. キャリアの概念を理解し、自分自身のキャリア発達を主体的に考えることの重要性を理解することができる 2. キャリア発達上で直面する課題およびキャリア発達を促進するための力や資源について理解することができる 3. キャリアデザインの方法を理解し、自らのキャリアデザインを考え、説明することができる				
〔授業の概要〕				
キャリアの概念と看護職のキャリアを取り巻く状況、キャリア発達上の課題、組織とキャリア開発の実際について理解を深める。さらに、ゲストスピーカーのキャリア発達の実際についての講演を基に、職業と人生観・生活の質・看護専門職としてのキャリア継続について学ぶ。 自己のキャリアデザインを描くために、自己理解を基盤にし、看護職を職業として現実的に捉え、自身の人生の中にどのように統合していくのか、将来に向けて問題解決や意思決定を個人ワークやグループワークを通して行う。 保健師、助産師、看護師（専門看護師・認定看護師）の実務経験を基に、講義およびキャリアデザインワークにおける学習支援を行う。				
〔授業計画〕 キーワード： キャリア、キャリア発達、キャリアデザイン、自己分析、自己理解				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回 0.5	11/20・	キャリアと看護職のキャリア	キャリアの概念、キャリアに関連する理論 看護職のキャリアを取り巻く状況	西村 宣子
第2回	11/27・	看護職のキャリア発達	キャリアと看護職のキャリア 看護職になる 社会人になる	西村 宣子
第3回	12/4・	組織とキャリア発達	組織におけるキャリア開発 看護職のキャリア開発の実際	西村 宣子
第4回	12/11・	キャリアデザインワーク1	自分らしいキャリアの作り方 キャリアをデザインする方法 他者の力を借りて自己を洞察する	西村 宣子
第5回	12/18・	看護専門職者のキャリア発達 1	地域および医療施設における看護職のキャリア発達の実際 (ゲストスピーカーの講演を基に、職業と人生観・生活の質・看護専門職としてのキャリア継続について学ぶ)	西村 宣子 (特別講師)
第6回	1/8・	看護専門職者のキャリア発達 2		
第7回	1/15・	キャリアデザインワーク2	自分のキャリアをデザインする キャリアデザインの共有	西村 宣子
第8回	1/22・	まとめ	学びのまとめ	西村 宣子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習なし 復習：授業資料を見直す		
テキスト		適宜授業で提示する		
参考書・参考資料等		適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習態度(20%)、小テスト(30%)、課題(50%)により総合的に評価する。		

授業科目名	看護管理実習 (Nursing Administration Practicum)	必修：看4年 編入4年	1単位 45時間 NSA401	担当教員名： 西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識		倫理観とプロフェッショナリズム		多職種との協働
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護管理者が行う実際の看護管理実践を体験することを通して、人々に安全で質の高い看護サービスを効率的・効果的に提供することをめざして行われる看護管理のあり方について理解する。 1. 必要とされる看護サービスを提供するための看護の組織化について説明できる 2. 看護職員の人的資源管理のしくみについて説明できる 3. 看護活動に必要な物的資源管理のしくみについて説明できる 4. 看護活動に必要な情報管理のしくみについて説明できる 5. 看護の質改善のしくみについて説明できる 6. 円滑な組織運営のためのリーダーシップについて説明できる 7. 施設に対する社会的要請と要請に応じるための看護管理上の課題について説明できる				
〔授業の概要〕 本授業は、看護管理論で得た知識を基に、医療施設の看護管理者のシャドーイングを通して、人々に安全で質の高い看護サービスを効率的・効果的に提供することを目指して行われる看護管理実践について学ぶ実習である。さらに実際の看護管理活動の講義、グループワークと学習成果の発表を通して上記に示す到達目標の達成を目指す。看護管理者としての実務経験に基づき、2名の担当教員が実習の支援を行う。				
〔授業計画〕キーワード：看護管理、人的資源管理、物的資源管理、情報管理、質改善、医療安全管理				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	1G：6/10 2G：6/10	病院実習	1. 実習病院の機能と看護管理の概要について実習施設看護管理者の講義 2. 実習テーマの設定(グループワーク)	西村 宣子 富樫 恵美子
第2回	1G：6/11 2G：6/13	病院実習	1. 看護管理者のシャドーイング 2. 看護管理関連部門の見学 3. 学びの共有(グループワーク)	
第3回	1G：6/12 2G：6/14	病院実習	1. 看護管理者のシャドーイング 2. 学びの共有(グループワーク)	
第4回	1G：6/13 2G：6/12	学内実習	1. 夜間・災害看護における看護管理・ 2. 学習テーマのまとめ(グループワーク)	
第5回	1G：6/14 2G：6/17	学内実習	1. 設定した実習テーマの学習成果の発表と共有	
履修条件	看護管理論、成人看護学実習(慢性期)成人看護学実習(急性期)の各単位を修得済みであること。			
予習・復習	予習：実習施設の概要、看護管理論の授業資料とテキスト復習する			
テキスト	上泉和子他著〔系統看護学講座 統合分野〕看護管理 第10版(医学書院)			
参考書・参考資料等	適宜関連図書を紹介する			
学生に対する評価	学習態度(20%)、到達目標への到達状況(80%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	総合実習 (Integration Practicum)	必修： 看4年	3単位：135時間	科目責任者：西村宣子（看護師） (図書館棟8号室)
		編入4年	コード：NSA402	
実務経験のある教員による授業科目				看護教員全員
[DP]	倫理観とプロフェッショナリズム	実践に必要な知識	健康づくりの実践	多職種との協働
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>1. 各自選択した領域において実習の課題と目標を明確にし、主体的に実習に臨むことができる。</p> <p>2. 病院施設や在宅などの多様な場での継続的な看護提供方法、ならびに地域の健康問題を解決・改善する看護活動方法を理解できる。</p> <p>3. 看護チームの一員として、対象者を地域生活者として捉え、必要な看護援助を提供できる。</p> <p>4. 保健医療福祉チームの一員として多職種連携・協働や役割調整等の実際を学び、看護職の役割と責任を考えることができる。</p> <p>5. 総合実習での看護体験を通して、自らの成長と今後の課題を明らかにすることができる。</p>				
〔授業の概要〕本授業は、9領域の実際の看護実践現場に近い環境で、これまで学んだ知識・技術・態度を統合して看護の本質を考えながら、実務に即したチームナーシングや複数患者受け持ちなど総合的な看護実践能力の向上を目指した実習である。また、保健医療福祉チームにおける一員としての看護活動や病院・施設・在宅などで療養する対象者を地域生活者として理解し、継続的に看護を提供するとともに、健康づくりなど予防を重視した看護活動についても学ぶ。 保健師・助産師・看護師の実務経験のある教員が各専門領域の実習支援を行う。				
〔授業計画〕キーワード：看護実践能力の向上、チームナーシング、多職種連携・協働				
1. 実習方法概要				
<p>1) 学生は以下の専門領域のいずれかを選択し、それぞれに分かれて実習を行う。</p> <p>基礎看護学領域、看護管理学領域、成人看護学領域、精神看護学領域、高齢者看護学領域、在宅看護学領域、地域看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域</p> <p>2) それぞれの領域においては、専門領域の看護実践に関係の深い入院・入所機関（外来含む）、福祉機関、在宅機関、市町村保健センター等を選定する。 3) チームナーシング、多職種連携・協働を実習で経験する。</p> <p>4) 実習日程：3週間の日程において各領域の実習を展開する。</p>				
2. 各専門領域の実習概要				
<p>基礎看護学領域：各自の実習テーマに基づき1人または複数の患者を受け持つ。看護チームの一員として看護実践を行いながら、チームアプローチによる看護展開を学ぶ。</p> <p>看護管理学領域：訪問看護実習を通して、対象者を「地域生活者」として捉え、尊厳を大切にしたい看護の在り方を学ぶ。医療施設における看護チームの一員として療養の場の移行支援を実践し、多職種連携・協働、看護師の役割を学ぶ。</p> <p>成人看護学領域：医療施設で実際の看護チームに入り、メンバーとして複数の患者への看護実践を体験しながら、効果的なチームアプローチのあり方及び多職種連携・協働のあり方を学習する。</p> <p>精神看護学領域：精神科病院においてチームの一員として看護実践を行いながら、学生自身がさらに高めたい精神看護学領域における看護実践能力の向上を目指す。</p> <p>高齢者看護学領域：介護保険施設におけるチームアプローチでの看護の提供を経験し、チーム機能やメンバーの役割、多職種連携の実際、看護の役割等を学ぶ。</p> <p>在宅看護学領域：訪問看護を利用するひとりの在宅療養者に対し、多職種連携をふまえた在宅看護過程の展開を実践的に学ぶ。また、地域包括支援センターの実習で、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。</p> <p>地域看護学領域：市町村保健師が現在感じている健康課題から実習テーマを設定し、地区活動の一部を実践しながら、地区活動の展開方法とその考え方を学ぶ。</p> <p>母性看護学領域：助産課程選択者を中心に学生を受け入れる。産後の母子を受け持ち、夜勤帯実習を含むチームナーシングを経験する。</p> <p>小児看護学領域：設定した実習テーマに基づき、入院や入所が必要な健康障害のある子どもとその家族を受けもつ。看護チームの一員として実習し、チームアプローチを経験する。</p>				
履修条件	選択する専門領域の実習科目の単位を取得していること		予習・復習	各領域で指示する
テキスト	特に指定しない		参考書・参考資料等	各領域、各担当教員が個別指定する
学生に対する評価	実習実践内容(40%)、提出記録物(40%)、学習態度(20%)により総合的に評価する			

授業 科目名	看護研究 Nursing Research	必修：看4年 編4年	単位数：2単位 60時間 コード：NSA403	担当教員名： 科目責任者 河部 房子〔看護師〕 (研究室：教育棟B307) 講師以上の看護教員全員〔看護 師，保健師，助産師〕
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム， 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、看護実践のなかで生じた疑問等を研究テーマへと発展させ、研究計画を立案して実施し、研究レポートを作成して発表をする等の一連の研究プロセスの方法を体験し、看護の質向上のための科学的根拠の蓄積に関する理解を深めることを目的とする。				
〔授業の概要〕 看護実践をよりよいものとしていくためには、看護実践における問題の解決をめざす研究方法を身につけ、科学的なアプローチに基づいて看護実践の改善・充実をはかることが求められる。演習形式で行われる本授業では、研究プロセスの体験を通して看護実践を捉え、看護学の発展を志向する姿勢や素養を培うべく、研究方法や倫理的配慮等、研究プロセスに必要な事項の理解を深めることとする。				
キーワード：研究プロセス、科学的アプローチ、倫理的配慮				
〔授業計画〕				
<授業方法の概要>				
1. 研究指導について：学生は、基本的にはそれぞれの関心や研究テーマの希望に沿いながら、9つの看護領域（基礎看護学、看護管理学、成人看護学、精神看護学、高齢者看護学、在宅看護学、地域看護学、母性看護学、小児看護学）のうちのいずれかを選択・所属し、さらにその専門領域のなかで主たる指導教員（講師以上）を決め研究指導を受ける。				
2. 授業内容について：本授業科目では、看護研究の初歩的・基礎的なプロセスの全体を経験し、その成果を研究レポート等として提出することを達成目標とし、そのプロセスとしては（個々の研究テーマにより異なるが）おおよそ以下のような項目や内容を含むものとする。				
1) 自らの研究目的や動機を明らかにしつつそれに基づいた適切な研究テーマを設定できる。				
2) 研究テーマに関する先行研究レビューやクリティーク等を実施できる。				
3) 研究テーマに対して適切な研究デザインあるいは研究方法を学ぶと共に選択・実施できる。				
4) 研究倫理に関する学びと共に自らの研究において配慮できる。				
5) 研究方法に沿ったデータ収集やデータ分析が実施できる。				
6) 研究結果を適切かつ妥当に提示できる。				
7) 研究結果に基づき、研究テーマに即した考察が、他文献等を参照しつつ実施できる。				
8) 一定の結論が導き出され記述できる。				
9) 以上の研究実施（内容）に先立って必要な「研究計画書」が作成できる。				
*以上の項目や全体を、平易で論理的な構成と表現でまとめる（研究レポート）				
3. 授業の進め方と研究成果の提出等				
1) 看護研究ガイダンス（全体ガイダンスと研究倫理について、2回実施）に出席する。				
2) 演習やゼミナール等の指導日程・方法等は各担当指導教員と相談しつつ計画し決定する。				
3) 研究成果（研究レポート等）は定められた期限までに提出する。				
履修条件	特になし			
予習・復習	各指導教員の指示による			
テキスト	特に指定しない			
参考書・参考資料等	特に指定しない			
学生に対する評価	提出物：研究レポート等（80%）、学習態度（20%）により総合的に評価する			

授業 科目名	看護学統合 (Nursing Integration)	必修：看4年 編入4年	1単位 30時間 コード：NSA404	科目責任者：西村 宣子 (看護師)(図書館棟8号室) 看護教員全員 【保健師・助産師・看護師】	
		実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕 生涯にわたる探求心と自己研鑽 倫理観とプロフェッショナリズム					
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
1. これまでの看護学に関する学びを振り返り、本学科のディプロマポリシーに照らして自己の到達レベルを客観的に評価することができる 2. 4年間の習得状況を踏まえて自分自身の将来像を描き、卒業時までの目標を明確にするとともに具体的な行動目標を設定し、目標達成に向けて取り組むことができる 3. 看護専門職業人としての今後の課題、目標を設定することができる					
〔授業の概要〕					
ポートフォリオなどを用いて4年間の看護学の学びを振り返り、これまで身に付けた知識・技術・態度の到達レベルを学科のディプロマポリシーに照らして評価を行う。またそれらを踏まえて、自分自身の将来像を描き、卒業時までの課題および看護専門職業人として成長するための課題を明らかにする。さらに、これらの一連のプロセスを通して自己の学びを、教員からの助言や学生間の発表・意見交換を通して、自己評価力を高める。保健師・助産師・看護師の実務経験のある教員が、定期的に学習支援を行う。					
〔授業計画〕 キーワード：看護専門職、ポートフォリオ、到達レベルの評価					
回数	テーマ	内 容		担当	
第1回 第2回	ガイダンス	・本学科のDPと照らした到達レベルの評価方法 ・ポートフォリオの活用の仕方・学習のすすめ方		西村 宣子 富樫恵美子	
第3・4回	学習の振り返りと可視化	・ポートフォリオ(学習の成果物)などの整理		担当教員(看護研究担当)による個別指導および集団指導	
第5回 第6回	4年間の振り返り 到達レベルの評価	・ポートフォリオなどをもとに、これまでの学びを振り返り、本学科のDPに照らして到達レベルを評価する			
第7回 第8回 (8月頃まで)	自己の成長の確認と卒業時までの目標の明確化	・卒業後の自分の将来像を描くとともに、卒業時までの目標、将来にわたる目標を明確にする ・目標達成に向けた具体的な取り組みについて確認する			
第9回 第10回 第11回	目標達成に向けた具体的な取り組み	・卒業時まで提示した目標達成にむけて取り組む(取組みの方法に関しては担当教員と相談する) ・取り組み状況の確認と評価、将来像および将来にわたる目標の再設定。			
第12回 第13回	・成果発表会	・自己の将来像、取り組みの成果を発表し、互いの成長を確かめ合うとともに、自己の強みを認識し、将来像をより具現化する。			
第14回 第15回	・卒業後の目標の設定	・看護専門職人としての自己の将来像を具現化し、新たな目標を設定する。			
履修条件		すべての実習科目の単位を修得、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること			
予習・復習		特になし			
テキスト		適宜紹介する	参考書・参考資料等		適宜紹介する
学生に対する評価		学習態度(20%)、資料の作成(40%)、発表会への参加状況(10%)、最終レポート(30%)			

授業 科目名	リーダーシップ論 (leadership)	必修：看2年	1単位：15時間	担当：西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		編入3年	コード：NSA202	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 コミュニケーション能力 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. リーダーシップとは何か、関連する理論とともに理解できる。 2. 組織におけるリーダーシップとフォロワーシップについて理解できる。 3. リーダーシップとマネジメントの関係について説明できる。 4. リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて理解できる。 5. 看護実践の場で発揮されるリーダーシップのあり方を理解できる。				
〔授業の概要〕				
リーダーは、人間関係技術を効果的に使い他の人々に影響を与えながら、特定のゴールを目指し達成していく人である。リーダーシップの技術として重要なものは、先見の明、コミュニケーション能力、動機づけ、自己率先、計画性、温かさや思いやり、統率力などである。本授業では、質の高い看護実践を組織的に展開できるリーダーになるために、具体的なリーダーシップの方法、リーダーに求められるコミュニケーション技術について講義、演習、事例を通して学ぶ。また、特別講師による創造的・変革的なリーダーシップを発揮した活動について実践事例の講義から理解を深める。 看護管理者のリーダーシップの実務経験に基づき、講義および演習を行う。				
〔授業計画〕 キーワード：リーダーシップ、マネジメント、組織の成長、フォロワーシップ				
回数		テーマ	内 容	担当
第1回	4/10・	リーダーシップとは何か	リーダーシップの定義 リーダーシップの理論的変遷	西村 宣子
第2回	4/17・	組織とリーダーシップ	組織とは何か、グループダイナミクス 組織文化、組織の意思決定	富樫 恵美子
第3回	4/24・	リーダーシップとマネジメント 自身のリーダーシップの分析	マネジメントとリーダーシップの関係 看護マネジメントとリーダーシップ	西村 宣子
第4回	5/1・	フォロワーシップ	組織の中の個人、フォロワーシップ 成熟した組織のリーダーシップ	富樫 恵美子
第5回	5/8・	リーダーに求められる コミュニケーションスキル1	アサーティブなコミュニケーション リーダーシップとアサーティブネス	富樫 恵美子
第6回	5/15・	リーダーに求められる コミュニケーションスキル2	エンパワーメント コーチング ファシリテーション	西村 宣子
第7回	5/22・	看護実践の場で発揮される リーダーシップ	リーダーシップを発揮した実践活動の 実際	西村 宣子 (特別講師)
第8回	5/29・	まとめ	ファシリテーションの実際	西村 宣子 (特別講師)
履修条件		特になし		
予習・復習		予習なし 復習：授業資料を見直す		
テキスト		適宜授業で提示する		
参考書・参考資料等		適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習態度(20%)、授業課題(50%)、最終レポート(30%)により総合的に評価する。		

授業 科目名	国際看護論 (Global Health Nursing)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 小黒道子 田中由美子、五十嵐ゆかり (非常勤講師室)
		選択: 看 2 年 編入 3 年	コード: NSA203	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .倫理観とプロフェッショナリズム .健康づくりの環境の整備の改善 .生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 【授業の到達目標】 1. 世界の健康課題の背景を社会・経済・文化的側面から理解できる。 2. 国際看護活動と国際機関, 国, ODA, NGO, 住民の役割を理解できる。 【テーマ】 自分がグローバル社会の一員であることを理解し、健康格差の解決に必要な自己の取り組みを考察できる。				
〔授業の概要〕 講義・演習を通して、国際看護の役割やグローバル化にともなう健康課題を理解する。また、在留外国人の健康課題とその支援に対する理解も深める。グループワーク課題「開発途上国における健康課題を考える」については、アジア・アフリカにおける国際協力プロジェクトに参画した実務経験に基づき、小黒・田中が担当する。				
キーワード: グローバルヘルス、持続可能な開発目標、国際協力、異文化看護、多文化共生社会				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第 1 回	4/8	オリエンテーション	授業の進め方、課題説明	小黒道子
第 2 回	4/8	ミャンマーでの国際協力活動	国際協力の実際と今後の展望を講義	小黒道子
第 3 回	4/15	国際看護に関連する概念や関連機関を知る	個人ワークの発表と教員によるミニレクチャー	田中由美子
第 4 回	4/15	国際協力活動や国際保健キャリアパスの実際	国際協力の実際と国際保健キャリアパスに関する講義	田中由美子
第 5 回	4/22	開発途上国における健康課題を考える	グループワーク	田中由美子
第 6 回	4/22	開発途上国における健康課題を考える	グループワーク発表	小黒道子
第 7 回	5/13	在留外国人への看護	内なる国際化の実際と看護支援に関する講義 (オンデマンド)	五十嵐ゆかり
第 8 回	5/13	まとめ	第 1-7 回までの振り返り、まとめの講義 (オンデマンド)	小黒道子
履修条件	特になし			
予習・復習	授業内で提示する			
テキスト	指定なし			
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介する			
学生に対する評価	授業態度 (40%)、レスポンスシート (30%)、グループワークへの貢献 (30%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	家族看護論 (Family Nursing)	履修年次 選択	1 単位 15 時間	担当教員名: 畠山 とも子 (非常勤講師室)
		看 2 年	コード:NSA204	
		実務経験のある教員による教育科目		
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの環境の整備・改善 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 患者・家族と看護師との相互作用を理解し、援助の基本が分かる。 (2) 家族アセスメントの基本が分かる。				
〔授業の概要〕 ・家族も援助の対象であることを学ぶ。 ・講義、ビデオ学習を通して、患者・家族と看護師との相互作用を学ぶ。 ・自らの家族を知ることによって多様な家族の在り方に気づき、必要な看護が分かる。				
キーワード: 相互作用、円環的思考、価値観				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	12/17	導入講義	家族看護学とは何か	
第 2 回	12/17	私の家族を知る	ジェノグラム・私と私の家族の価値観・私と私の家族の強み	
第 3 回	1/7	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 2 臨床での家族支援 個人面接での関係づくり	
第 4 回	1/7	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 2 臨床での家族支援 個人面接での関係づくり	
第 5 回	1/14	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 3 臨床での家族支援 複数面談での関係づくり	
第 6 回	1/14	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 3 臨床での家族支援 複数面談での関係づくり	
第 7 回	1/21	家族の多様性	課題レポートの共有	
第 8 回	1/21	家族の多様性	課題レポートの共有	
履修条件		特になし。		
予習・復習		特になし。		
テキスト		特になし。		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		最終レポート 60%、発表・討議 10%、中間レポート 30%		